

「美の滋賀」発信方策および琵琶湖文化館後継施設基本計画について

1. 経過・現状

県では、平成 24 年 2 月の「美の滋賀」発信懇話会の提言を受け「滋賀をみんなの美術館に」というコンセプトのもと、「美の滋賀」づくりを推進してきたところであり、

①県民や関係者とともに「美の滋賀」の土壌をつくり、活動を活性化させる

②新生美術館をつくり、地域や現場と交流しながら受発信する

③滋賀の「美」の魅力を県民自らが伝える舞台をつくる

という 3 つの視点から具体の取組を展開してきた。

「美の滋賀」の入口・拠点として整備を計画していた新生美術館については、平成 29 年度に建設工事が入札不落となったことを受け、一旦立ち止まることとし、喫緊の課題である近代美術館の老朽化対策工事を実施した上で、令和 3 年度早期の再開館を目指すこととした。

また、昨年度、「琵琶湖文化館機能継承方針」を検討する中で、文化財保護法の改正や、地域で文化財を守る担い手不足の深刻化などの文化財を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、文化財の保護・活用のため、琵琶湖文化館後継施設は独立性の高い施設と専門性の高い組織を備える形で整備することとし、2 月定例会議において 3 つの美を 1 つの建物で表現するという従来の方針から、2 つの拠点施設（近代美術館・琵琶湖文化館後継施設）を核に「美の滋賀」を発信する方針へと転換することを表明した。

2. 令和 2 年度の主な取組

（1）「美の滋賀」発信方策の検討

拠点施設の方針転換や、新型コロナウイルス等の社会情勢の変化を踏まえ、今後の「美の滋賀」の推進および効果的な発信に向けて、「美の滋賀」の全体方針を 2 つの拠点施設のあり方も含めて検討し、年度末をめどに取りまとめる。

「美の滋賀」発信方策検討懇話会を設置し、外部有識者や関係団体等の意見も踏まえながら検討を行う。

（2）琵琶湖文化館後継施設基本計画の検討

後継施設の目的・コンセプト、必要な機能、施設整備計画について検討を行い、年度末を目途に基本計画として取りまとめる。

琵琶湖文化館後継施設基本計画検討懇話会を設置し、外部有識者や関係団体等の意見も踏まえながら検討を行う。

（3）近代美術館の再開館に向けた準備

令和 3 年度早期の再開館に向けて、老朽化対策（リニューアル）を実施するとともに、再開館後の展示計画や運営方針の検討を行う。

「美の滋賀」発信方策検討懇話会委員

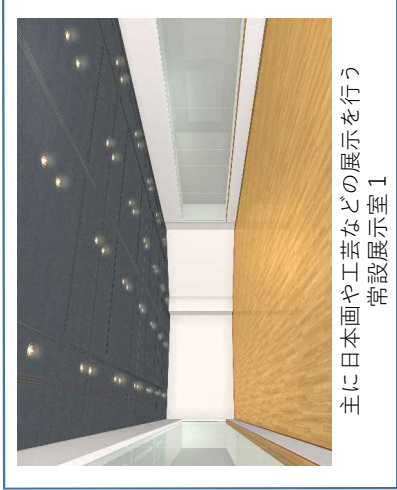
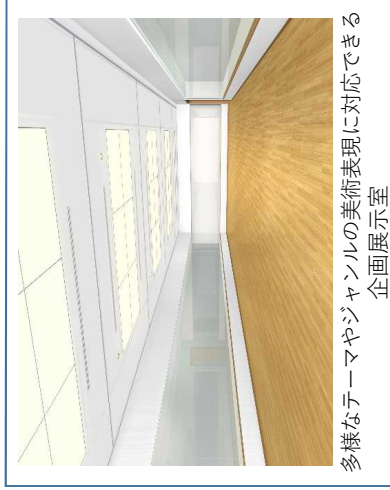
(敬称略・五十音順)

氏名	役職等
伊熊 泰子	株式会社新潮社「芸術新潮」編集部員
上田 洋平	滋賀県立大学地域共生センター講師
岡田 修二	成安造形大学学長
神田 浩	滋賀県美術協会理事長
島 敦彦	金沢21世紀美術館館長・近代美術館協議会委員
藤野 滋	藤野商事株式会社代表取締役社長 滋賀経済同友会副代表幹事
保坂 健二郎	東京国立近代美術館主任研究員
山崎 仁嗣	膳所高等学校教諭

滋賀県立近代美術館 老朽化対策（リニューアル）の主な内容

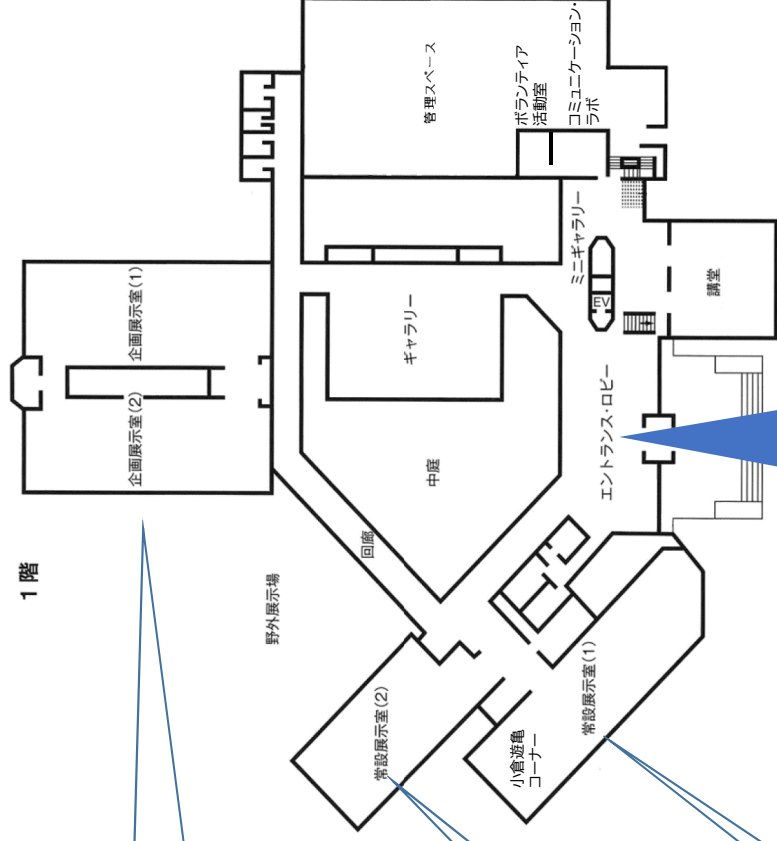
作品の魅力をより楽しめる

- 各展示室内装（天井・床・壁面）の張替
- 作品を守り演出効果の高いLED照明の導入
- 快適な鑑賞のための壁面ガラスケースの低放射施工



人と作品の安全を守る

- 万一の場合も作品を守るガス消火設備を各展示室に導入
- エントランス・ロビー天井の耐震化
- 老朽化した空調機器の更新
- 防火シャッターの改修
- セキュリティ向上のための扉新設や電子錠設置



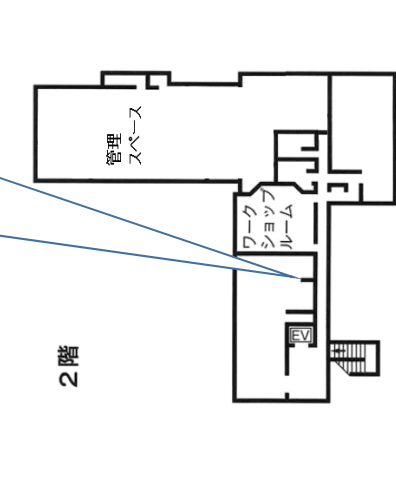
賑わいのある美術館へ

エントランス・ロビーおよびその周辺を「ウェルカムゾーン」と位置づけ、来館者が美術や滋賀の魅力に出会いくつろげるとともに、多様な人が関わり参加し、交流が生まれる場所として活用する。

- 情報コーナー、カフェコーナー、ショップ、キッズスペースの設置
- 小規模なイベントや展示に活用できる多目的スペース（コミュニケーション・ラボ）の新設
- ポランテア活動室の新設

みんなにやさしく使いやすい

- 授乳室や親子で使えるファミリートイレの新設
- 各トイレの全面改修（洋式化）
- 誰もがわかりやすい案内表示に更新



スケジュール（予定）

- 令和2年3月 老朽化対策工事着工
- 令和2年12月 工事竣工
- 令和3年度早期 再開館